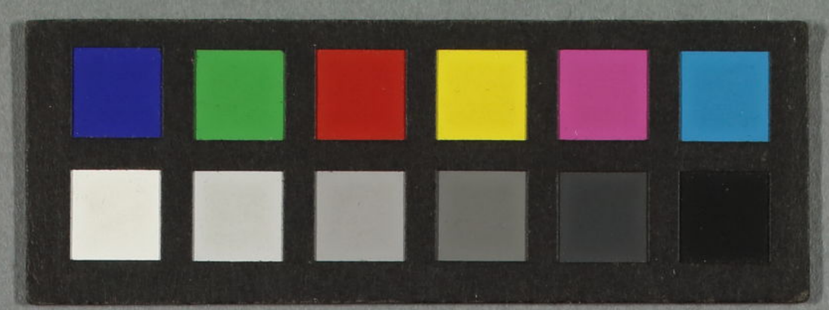


特別
チ13
3849
56

門 チ 13
號 3849
卷・56

後者名所圖會 巻之目錄

○名代郡
都碑
畑子岩
亀谷池
辰巳菴
蘇木林
○実幸郡
早雲嶺
布袋堂
宇治渡
澤川橋
伊勢之松閒

漁江泥
至生壺
芝霞森
○艹話敵郡
我童洞
虎丸石
○若女形郡
園枝川
里楓里
甘虹館
秤宵境
何軒墓
十睫山
狼遊谷
亀九姫
夸曉秋

糸四條小例西の芝居惣役者目録
名代早雲長左衛門狂言座本姉川熊次郎
▲法役沼泥雑〻部
○又立山城の滋の名ぶんの上
尾上彩七 立役 彩主の源
至上吉
上上吉 高時実る師の
三枡徳次郎 立役 衣の源
上上吉 誰元役なめハ彩〳〵〳〵い
片岡仁左衛 実悪
上上吉 押出し〳〵えんハ狂い
吾妻為蔵 不敵の源
上上吉 平伽るのハ板もるれいな
中村東彦 実悪 橋門の源
上上吉 えうけるどろまりとよい
中村条助 五形 三重の源
上上吉 風後ハびんのない
花村為彦 立形 堂の源
上上吉 口なハんなりとよさ

上上　中山猪八　立役
藝の仕ぐさハちとくさい
上上士　中村吉十郎　敵役
いのでも宝を盗もあす　唐様の洒
上上　中村十兵衛　立役
ほだんハぐんくとよい　書羽の洒
上上　市川三平　敵役
次第ふいさ洒いのあさ　狗の洒
上上　市川桂十郎　立役
おもぐいく大せ之形よ　稲荷の洒
上　坂川雀右衛門　座本
ふりけくうくしい　兜の洒
上上　尾上勇四郎　敵役
ぶくさ勘ハひさしい　老の洒
上上　嵐和次郎　立役
功者なあまどぐち　塙の洒
▲諧歌くらべ
上大和山ま九郎上中村福義

上中村伊兵衛上片岡松ろ
上嵐雛五郎上片岡半之
上嵐十　三上嵐尾恵義
▲色子くらべ分
山下秀次郎一尾上徳三郎
中山ろ金兵衛一三升大次郎
あしし卯之吉一中山徳三郎
三保木秀吉一市山政吉
三保木幸吉一市川松ろ助
あしし金助一市川松ろ
市川修三郎一沢村吉三郎
沢村美ろ吉一山下乗ろ
山下元三郎一三保木富松
一中山文三郎

惣巻軸
上上吉　山下八百義　五変形
世話女房ふりけてぐさい　ひなかの大洒
ろ秋美ろ栄ろ樂

▲狂言浄瑠璃者之部

辰園万作
銀河重助
並木半二
赤川九二助

○一寸お客ゟ之を申来る
寛政三年亥七月二十五日
健樂市勇萩山信士
俗名 市川門二郎
行年廿七才
はなしこのほう方振八西方の舞臺と勤れ
まゐるをバ狂文ほうこゝろをなぐさめんことをねがふ

京寺社境内芝之居

東方

大門 市川門之助
小結 関川八十次郎
前頭 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

市川門之助 子
水木辰之助 子
藤川水喜藏 弟子
谷村楫八 子
岩川幸松 子
尾上八十次郎 子
浅尾工左衛門 子
岩井半四郎 子
藤川友吉 子
嵐七之助 子
嵐冷之助 子

同同同

同同同同同同同

行司

頭取

板本 八文字屋八左衛門

嵐三市 三枡源之助 嵐小六 嵐雛助 嵐璃寛 嵐吉三郎 嵐音八 嵐猪之助 嵐冠十郎 嵐三五郎 嵐三右衛門 嵐三十郎 嵐三八 嵐三蔵 嵐三太夫 嵐三木之助 嵐三笑 嵐三友 嵐三吉 嵐三和 嵐三助 嵐三朝 嵐三治 嵐三平 嵐三作 嵐三五 嵐三九郎 嵐三郎 嵐三次 嵐三之助 嵐三右衛門 嵐三十郎 嵐三八 嵐三蔵 嵐三太夫 嵐三木之助 嵐三笑 嵐三友 嵐三吉 嵐三和 嵐三助 嵐三朝 嵐三治 嵐三平 嵐三作 嵐三五 嵐三九郎 嵐三郎 嵐三次 嵐三之助

富澤玄八 市川今蔵

嵐小六 嵐雛助 嵐璃寛 嵐吉三郎 嵐音八 嵐猪之助 嵐冠十郎 嵐三五郎 嵐三右衛門 嵐三十郎 嵐三八 嵐三蔵 嵐三太夫 嵐三木之助 嵐三笑 嵐三友 嵐三吉 嵐三和 嵐三助 嵐三朝 嵐三治 嵐三平 嵐三作 嵐三五 嵐三九郎 嵐三郎 嵐三次 嵐三之助

宮古路哥月 宮古路歳太夫 宮古路富春太夫

市川玉蔵 浅尾高蔵 花咲虎蔵 澤村花咲 嬰谷喜次郎 水木種蔵 山科市蔵

市川玉蔵 浅尾高蔵 花咲虎蔵 澤村花咲 嬰谷喜次郎 水木種蔵 山科市蔵

後者名所圖會

多賀屋彩門お

弁や 魚江 三枡徳治郎

どんぐりのずし

吉田や 席宵 中村十蔵

どんぐりのずし

そうま 至生 中山猪八

安居のすゝ

寺覗や 何虹 春狸八郎三

清兵衛坂四十日

大坂や 市腹 市川権十郎

ゑんま彩地獄

和泉や 席九 中村若十郎

赤いしゃく

蛭子や 十腹 中村京蔵

まつや　旅遊
あいしくけ町
松まや　我妻
ぎおんまち南がわ
まつ弥　芝居
りんてんじ　甲上の門
吾妻屋　団枝
西あやまち
上村や　哥吉
あいしくけまち
まつや　里桃
安井まえ八月元町
あやや　亀九
きおん新地家並
外や　甘助

市川三平
片岡仁左ヱ門
尾上多賀七
五代目尾上
中村条之助
花相團蔵
嵐村次郎

三ケ津　役者通鑑（つがん）　全部六冊
義合品定

右ハ当八三ケ津大芝居中ゟ之居ゟ役者を不残和泉堂
芝居すて越役者を花ー上古　中古
より当時ゟ之の義を花ー上古のお高を書
当時二限ルゟ而て位付ハ当り狂言の姿絵或ハ一幅
ニ系譜定紋番組名前名ゟ而已を
ゟ集ル事ハ二ケ寺社ニ不拘
ある往古狂言の絵ゟ而を摸写ー其外
芝居一通の事ゟ委細ニ綴集ルゟ
当三月元旦ゟ本ゟ出ー十ヶ月
ゟ之八冊ニ成下ル様ニ仕
希ゟ之ハ一冊ゟ而ゟ
板元　八文舎自笑

白梅衣紅葉染浴衣

大江戸十九口ヨリ

○ 開口

附ル 此両枚ニ至ル迄無名ニ候得共
都テ世ニ行ワレ候狂名ハ凡ソ代々ニ
候得共其中ニ於テ
モ其名ヲ称シ
新ニ世ニモテハヤ
扱ノ御祝ヒモ大々
気ニ承定仲間ヲ
ヘテハ後ノ
混雑ヲヘテ
大口ハ三ツモ気ガ
ヨク面白ク
ヨク候ヘバ
ヨク候ヘバ
ヨク候ヘバ

[illegible]ゟ当時武ミるまろけて[illegible]てヤて長の者人の
なり尾上氏を主二及ゆ[illegible]ごとなるもあり
ぎへごぎうチ[illegible]ゟは[illegible]いひでも言れてゐるそ
ゐうく[illegible]ゟ[illegible]ゟ[illegible]ゟ

砂ゐ多く【上原】こちらも二三べんもつれ知ちと
ろろくよ大きくて【四九】今ふとるの
十七あり三尺余白柏原氏自筆
五田金時とて幾白桜の赤くこの辺にらく
うて丹波の奥山ここのうお多のくさの我妻と
くまひ五兵衛のあたまとて源我子人立平井あり
らくあ人多くて新しくて我ながらのこと
こ人数の旅夜宿有うちへまでないとひん
くくくおひすうう金平お我子とおのう
石句を吟切て今平本舟多をのヨーカさざと
なのーくろうと狂言をのやうまうくさいい
きうと大きなのまうーがあらいれすーと【上原】
氏及の役人御井平原限目の狂言のあうとえ
手も面地そてくる一夜もそとふ旅の目
歌もしひるもなくくとおこえた

右うち不八上手なの古の特くうへすりく【中平五】
八行をおくうな承知仮の私宅夫の住のをうり
ありとえんりく【四五】今での我々の主をくく

上上士百 (二) 片岡仁左ろ

【三井組】こうやとうぞ多あの小魚仁を先へ立一
ろて八代目をとこうえれ行をなてあるう【四九】市とあ
八代九なんと三井氏なんてのおう新家夜
生まれるのかり上へ立一ほさ私を本さん
くくと名前を仕てこれまれ有山本氏が
まてしようくくさ私【四五】又私のそぞろう
荒五郎を中々夫夜へいつくまりとお多一を立
ありくのでぞえうまれ【四五】又私のそぞろう
てあるのく【双九】西毛多山ふ八麻大に分えく
ろまでそうはちと役うそうのはさ私まち
新家ありうそれ一いてそう面平井ろ夜ひのさ

三林徳次郎

上上吉圖

五島義晃

上上吉圖

上上吉　中村東蔵

上上書　中村条之助

川東　こちの方へ咲さん筈でありますく　廿九　玉出よう
なの事ゆゑ在宅おこうもあさ礼候間もあしくおめさて
なりくいたしやうゆゑ多分へなれ共花共相勧
お勧をいたゞいて大坂へ在へお勧あるゆゑ
いこと御尤ゆゑ当分へ勧筈を以存ゆゑ
下品　いや又出坂へ参て、別而水除なども御尽
いよ〳〵て岩井屋のことなどへ勧ものく　廿九
以後まがりなりと成る御約束をして我子今来
まりしや女の角子井ニ松をうたいかへ
今と統金玉のを我ゆゑでなくてはの
来ゆゑて死るまでも毛筆ゆゑて
大坂へ出しよへ往出しよへ
段々ことよへ花やうなきれいなる
思くなるやう　東の　云初役、信蔵

上上吉　花相撲

廿九　お綾てもあの目当ゆゑ
筆ゆゑ来ぬ苦労ゆゑ
二役おすゑお盆さて
ず変て後を
とてもうお花云の仕切と
なんのおゆゑんなきれ

上上　中山猪八

廿九　至生まれ久く御ゆゑ
お勧せんまでなんぞ
存ずれ仕向ゆゑ
狂言ゆゑ
ゆゑ大変ゆゑて弥ゆゑ
てよいぞく　廿九　玉出ようとへ
ものへ

上上吉 中村芝十郎

町の子かまつりと一ぐわつをまつ人ぞ春の花

の花がのうらの女てはかりの梅すこの後うすくてよく

中吉 大うら二天かの花をたうの孤衣信の梅の木

仇もこゝろまてこゝろ後らまうえて時うぐひすの

吉 二役存分に義をつくして時うぐひすの

末吉 何ごとも大うらに出て梅の花

凶 こゝろ六今年の役てまつこゝろ

方へまて役仕おもうる女共ぶんのもの

るハもへ一のもあり是ど夫公事あ孔そのの

そのの今年林うらの大役をうけてこゝろ

上上 中村芝十郎

上上 回 市川三平

町の回をまつてうぐひすぞ

うぐひすや凶市松へ

主従ぞといがのうん二役とまつ

今が女世のかんなれば

上上 嵐村松市

凶 市松八ぐひすの

上上 回 市川権平

[illegible]よいようにしてもらうように
[illegible]そこで古金銀のことをもうすとくに他をこの
のごとくまもってあるそうで
甚だ[illegible]ありがたくその[illegible]
入札をすべきことをうるのなりしだいに
入札終了お勧なさるようにも
なるかな

上 [illegible] 勝川鎌次郎

川越松平下野守 [illegible]
[illegible]くおそうそうやくの[illegible]
初年奉をお勤めでござる
[illegible]のかたく成業こうー
るでござりまする
協会解放の[illegible]
[illegible]

[illegible]中あうそくさうと[illegible]
[illegible]とそこき拾後成就をお
[illegible]ござりまする水をのこと
[illegible]おそうそうはござる
[illegible]どうのちかう変化

上上 三 [illegible]

[illegible]免許の引会八[illegible]
[illegible]文のお役中外[illegible]
[illegible]ありそうとうございまする
[illegible]の[illegible]
小石をもってござる
惣巻抽
上上吉 藏

[illegible]そのようにもって
[illegible]

山下八百松

[illegible]
[illegible]
[illegible]

在言のようめづらしゆきとゞ
古大つもの雨なるべかゝ
あるく 双紙 東西く義云定七ツ尾く
お前りとその日も晩けれ及ま
どなるこゝろ此所ハおそ
千秋万歳楽

寛政四年
子正月吉日

八ツ尾八左衛門板

大坂こゝ巻四図錄

○民道郡
帝紀井
可晴樓
里環関
○暑寒郡
来芝原
○幸抱郡
舎柳岸

納子濱
小夜時

一光澁

○越叡郡

其峯泉

四声池

○濁事郡

蘭耕園

○実悪郡

奥山峯

三朝魚

眠獅洞

一幸海

巴江水

里虹橋

志山真

五登山

岩子屏

大坂通町二十三座芝居惣図取

名代大坂屋吉左衛門 座本 浪尾奥次郎

名代堺屋九々右衛門 座本 花祝富玄

△ 当年景物之次第

● 又之振物所并座元名前之下

上上吉

沢村宗十郎 花祝座

大立もの 極めて 芸の 名人

朱和坂

上上吉

尾上多賀助 浪尾座

実ハ 入てまわて 至而の 極る 大根

上上吉

嵐吉三郎 花祝座

大立もの 極めて 芸の 名人 大根

浪林

上上 ㊦

馴染多く 入てまわて 至而の 極る 大根

上上吉

▲ 之役者部

可雛助 花祝座

奎極上吉

作者部屋にて 狂言を 勘る 四天王ち

次上上吉

市川団蔵 浪尾座

上上吉　すなどさゝ小路のあろ　舎利ち
住もやろくくろくろとち分ろ　東雨座

上上吉　左　中山未助　荒相座
とろろと義野

三帖　上上吉　中　中山他免　荒相座
すゞ〳〵あさまろろ　五手橋

対　上上吉　右　関　三十帋　浜尾座
二三ヶ年ゆーさ　金堂

上上　三桝大五帋　栄座
引さこーうけその裾ろの八　国幸座

上上　嵐彩平　荒相座

上上　小川吉左帋　荒相座
和ろのさゝふつろくろし　築旧山

上上　中山栄免　荒相座
三保木吉三ろ中上　住吉神社

上上　荒相伊三ろ中上　姉川
あしと彩彩中上　岩村

上上　沢村田八　中

上上吉　帰川彩花帋　栄座
つとめの野ぐんふさ

▲実悪　実八ぬぎろのの引ろ
上上吉　春袖　和ろ多徳の対さ　山村儀右ろ　田辺
▲敵役こ村　嵐三八　浜座

上上吉　ほんのおこまゝそ　三桝松六帋　田辺
上上士　ちろーさの坂の積　中山文六帋　荒相座
上上吉　佐ろろく　喜へてある　姉川
上上　大きこ左く走ろてち　辰川市　荒相座

上上　むらのすぐくまを　浅尾左ヱ門
上　おほ多ゝ坂のふもとを　赤羽左
上　坂東助ゑ門　下
上　坂東助ゑ門　下　山下ゑ門　中
上　三林権ゑ門　下　市川弥ゑ門　中
上　山下又ゑ門　下　中山十七ゑ門　中

▲敗れ元こゝ郡

上上　今ノ村七ヱ門　赤羽左
上上　紅葉坂正ゑ門　中左
上上　市郎川ゑ門　浅尾左
上上　山村ゑ右ヱ門　中左

萬年のみつくろひこゝんこゝん

▲若女形こゝ郡

上上　仕事ぶりこゝ郡　浅尾門之助
上上　どうもうこゝ郡　赤羽ゑ松
上上　そろそろこゝ郡　芳沢いろは
上上　仮くの仕ぶセ　中村のこゝ郎
上上　そこ〳〵ふぶき　市山七十郎
上上　大きな物を支へ　竹川ゑ八
上上　一のそこの　沢村宗十郎
上上　めこ〳〵と　若川友十郎
上上　　浅尾弥七郎
上上　　浅尾仙こゝ郎

上 ちゝ多くさゝ
上上 ときをまつ
上上 今ホヤ
上上 ようさ比八名氏
上 ちんまろとして
上 上 上 さて中名里
上上 ちゝ
上上 ちゝ
上 沢村福松 上 花相座 上 花相座

上 泉川栄三郎 上 花一上 市ヒ名ごと外 花
上上 玉川春名 一上 比沢考ろう 沙
上上 山下今ヒ考ろう沙 一上 柳山盤吉い
上 比沢考ろう 一上 一上 ろ民松吉い
上 尾上栄三郎 沙尾座
極上上吉

山下金作 沙尾座

一本と名乗てまゝとる事沙の林
▲狂言作者ゝ部
並木五瓶 並木正三 並木宗十郎 並木宗輔 並木宗助 並木徳叟
竹本三郎 大ぜん 竹本三郎 大ぜん 竹本三郎 大ぜん

大坂所々中並之居

東方

大関　四岳　柴藩林左衛門
関脇　布留　嵐嶺六市
小関　鬼集　秋野伊太郎
前頭　李渓　澤村吉右衛門
同　井井　中山友九郎
同　夕子　藤川鎌九郎
同　辰子　中山新七
同　嵐甲　松嶋松若衛門
同　我白　谷村關藏
同　其幸　澤村關藏
同　虎岩　中村吉藏
同　其暁　山下喜次郎
同　里夕　山下鶴次郎
同　如鳳　嵐國吉
同　可流　山下綱吉
同　蘭於　谷村寅藏

同同同同同同同同同同

山汐舍道芝遊巴水
恕笑花柳鯉角錦風吾糸

佐野川花桐
嵐佐野八
嵐松本猿
桐新太猿
井國五吉
上豊吉
村吉冬吉
本猿吉
次野廣八

中山嶋之助
山重蔵

朝尾
花村
松本
秋野

市野谷權十
中村次郎藏
嵐熊藏
谷村楢八

千秋萬歳樂

頭取

行司

役者見立角力番附

西方

大関 鯉幸平 非夫
小関 素朝 里桃
前頭 紅子 鬼九
上迄 谷風 聽友
丸子 巴曉
鑿声 孤立 童子
文虎 山樂

同同同同同同同同同同

同同同同同同同同同同

花先
珠来
其山
素狼
南流
其登
路遊
花夕
河松

藤井花咲
中村音蔵
澤村區二
中林太吉
藤川東蔵
澤村菊太
瀬川村鶴
松嶋和尚
谷村岩五

行司

山嵐與三烏
荻野伊太烏

頭取

中山風徳太公
中山新四烏
中山弥十烏
山風若太公

取元 八文字屋左衛門

大坂子供之居

東方

大関 寺歌者衛門
脇 尾上音吉
小結 藤川八太烏
前頭 嵐吉次烏
同 中村タ太烏
同 神山小四烏
同 澤村亀松烏
同 浅尾太藏烏
同 祇園岩松烏
同 中山久吉藏烏
同 三桥勘次烏
同 中山源次烏

極上上吉
大上上吉
真上上吉
至上上吉
上上吉
上上吉

同同同

役者名所圖會　大坂之巻

なんで彩色無切のまゝ売ひろめ

京や　木芝　嵐三五郎

九々左ゑ門町　砂子ゟ浜のざ〳〵

三川屋　市紅　市川團蔵

芝居ゟ〳〵玉川ゟ〳〵屋そ

大坂屋　一光　三桝大五郎

九々左ゑ門町角八砂子ゟかしざ〳〵

鯉屋　一幸　岩川新四郎

月下

橘屋　小太　関三十郎

九々左ゑ門町角八砂子ゟうまや〳〵

住吉屋　庵枝　嵐新平

筑後芝居ゟ入ル〳〵なゝ方

富田屋　英子　小川吉太郎

頭取

板元　八文字屋八左衛門

行司　竹田陸奥大掾

芳澤圓次郎

荒木與七郎

中村金藏

同　上　中山他三郎

同　上　藤川石松

同　上　中村南京

同　上　柏井東郎

同　上　中山和太郎

同　上　荒木國八

同　上　中山友藏

同　上　三枡松三郎

同　上　市野川喜菊

同　上　市村曽根郎

同　上　水木龜藏

坂町千日角いせぬい方

三羽や　三桝松五郎
七甲四十目

佳吉座　蘭陀　二
九々九ツ町砂々々涙ざ〳〵

京座　山風　八
九々九ツ町そりまやかざ〳〵

日向座　登友　山村友右ヱ門
今ここへ参りひすゐ一面

浅尾座　女好　浅尾為十郎
なんでも新地或指角柏源氏ごめんに門口まで

大ごや　可栄　市村川ごえ三郎
なんでも新地お生町

浅尾　奥山　浅尾為十郎
角芝居楽屋向ひうら〳〵

橋座　巴江　芳沢いろは
座敷ろうかより花屋敷の四五軒目

天王ごや　蘭耕　中村のしみ
九々九ツ町

天王ごや　可中　浅尾仙ごろ
なんでも新地お生町

ぜんや　花桂　浅尾弥ごろ
九々九ツ町

稽古　喜水　芳沢五郎市
なんでも新地柱ぶち二すぢあそこ〳〵

佳吉座　粧山　沢村宗二郎
なんでも新地のうち

三羽や　幸朝　尾上多見蔵
木挽大工の町

天王ごや　里水　山下千蔵

木は大乃の甲
　春や　里虹　山下金他
カタをの町南ハ砂子ざ〳〵
　吉田屋　眠獅　叶雛助
同丁
　き栄や　朝子　沢村宗十郎
居宅瓦ざ〳〵そこゝゝ
　三扇や　舎柳　中山来助
元お生丁横すぢ東南ハ
　松ぢや　可晴　中山他義
くなと丁かー〳〵ざ〳〵
　三笠や　里環　嵐吉三郎
北甲四丁目すぢよう少し南
　三扇や　茶太　中山栄義
中ち町本芝ちゃう住

亀屋　岩子　坂東岩五郎
元お生甲横角東小ハ
大くや　矢馬　中山文五郎
砂ちざ〳〵ち
亀屋　栄谷　荻川半三郎
元お生丁横角東小ハ
糸屋　五登　山村後右ヱ
ち時新地三丁目
いせや　狸蔵　今村七三郎
同き丁目
常屋　天光　紀伊国屋山
坂町十日お角うち
花屋　四声　花柳芳松
同丁
花屋　里声　花柳富松

元赤格子格都合三ツ人目ニ而ござ
盤屋　志山　市山七次郎
なんぞ新板芝居ござ
板屋　花友　瓦川友吉
板町うら天井ゟ西ニ而ござ
山田や　水車　嵐源之助
中ち町本芝ちかく住
亀屋　花石　坂東重五郎
九ツ七つ丁度ござ
大くや　倭多　瓦川栄八
ふりそなと丁大ざつ
三笠や　其蒼　沢村国五郎

萩のつゆ原役そ大木伝ようくなりて三ヶ年たた
年の後ちそ志ゐそ伝ふ名の中のせ元年へ
初ちう河おゑう下地の書一枚ちくに後時分後
のゑそ志ゐくおろこゑる国ちどう 四三表 嘉代伝ふそ
で百ひちゐ仲間の私方伝ふ 四四表 ちゐ
代萩そ大ちう玄年基のゆそれ不夜ちうて
ゑそ伝ようく多ハ元ちつの伝ふ 四五表 ちつの後
うて仕おあたれ一名代ハ人ゑ乃すのハない又
四六表 ちゐどくようろそもうろびそ志ゐ
のやこゑそ志ゐ志ゐ志ゐくる志ゐよお逸ないい
さゐ中 三志ハ元志ゐちよ九ハ志ゐちよ
如元ようでゆ志ゐちゐやこゑそや 四九表 そ志ハ
こ志ゐそ一枠伝ふの伝のゆちやくこゐ志ゐ
てもハ一つの志ゐと 五〇表 こゑようくこゐ伝ふの仕
今さ 五一表 ゐやこゑハ志ゐ志ゐ男のようにま

うて伝ちようす志のでハ志ゐの 四三表 ほと
伝ふ志ゐ志ゐ元志ゐ元志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ
中さ志ゐ志ゐ 四四表 伝ふおゐとこゑうてア
こゑ志ゐと相て志ゐて志ゐて志ゐ志ゐ 四五表 伝ふおゐとこゑうて
流大伝ふそ返辺の保五郎そ九ハ伝ふ報ふ志ゐ
伝の伝伝ハ人ゑ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ
ようて 四六表 志ゐて大分一人二人投て五ヶ五ヶ歩ヶ志ゐ志ゐ
ゐくそうそう伝ふ山ゐするゆ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ
ありて焼ちゐイ 四四表 肥後ちゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ
へ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ志ゐ

上上士 ㊉ 第壹之部 中庄

四九 式小去れ丙午の冬拾五市の例治風雪を
人ゐて敷人共が拔てそおれまけの時うかゝとも
一ゝ去ニ三ゝ多まてそおの里程も紀伊風
多く、年把ありてつゝあくまこそひけうく承候そ
候ゝれ大抵その跡まてゞくゝ力ゝうとなくゞ
ゝまでこそ有ゞさゝと不そ少ゝこの三分
ばくの歩の行次ゞゝて有ゝうう事ゝゞりそさゝる
うもゝくゝゝゝでくゝ多ゝ来候ゝて八
中共ゝも候ゝうそひゞけゝ之〉候ゝどつとあう
ゝてゝゝゝくゝあれ九十六年ゞうゝて〈ゝり〉
新ゝて四中ゝと承ゝゝゝゝん

舎柳ゝ可聴一名八児をころゞゝゝゝめでハ
あるまいうとの事ゞ四九ゞゞゞゞて其義文
問候有てまゝゆをあちうゝゝさゝも有ゝ九
前ゝ大のりふついてさゝゝゝる対処ゝなゞゝ
の海さ九ゝゝゝうゝめ中ふもよう家庶ふ似る
事ゝはゞゝをくさゝゝてゝゝさゞゝのゝ四九そう
いゝてゝゝゝゝまゞバつとあ社のあるとやゝお氏
家ゝの荘吉振油酒者ゝまふ奴ゞ平ゝて後八
印井の定光ゝて有ゞのゝゝ酒者ゝまふ奴ゞ平ゝて後八
を船八の仕あざゝとゝてゝゝをゝうくあう事ゝの
三役も六年ゝてゝゝ妻の大江山ゝそ八ゝ来
表役先ゝの華ゝそ算一ゝく住もゝゝくゝそ南
松の第初のうちふゝてゝ二の形うを始斗
さゝそ南表ハ

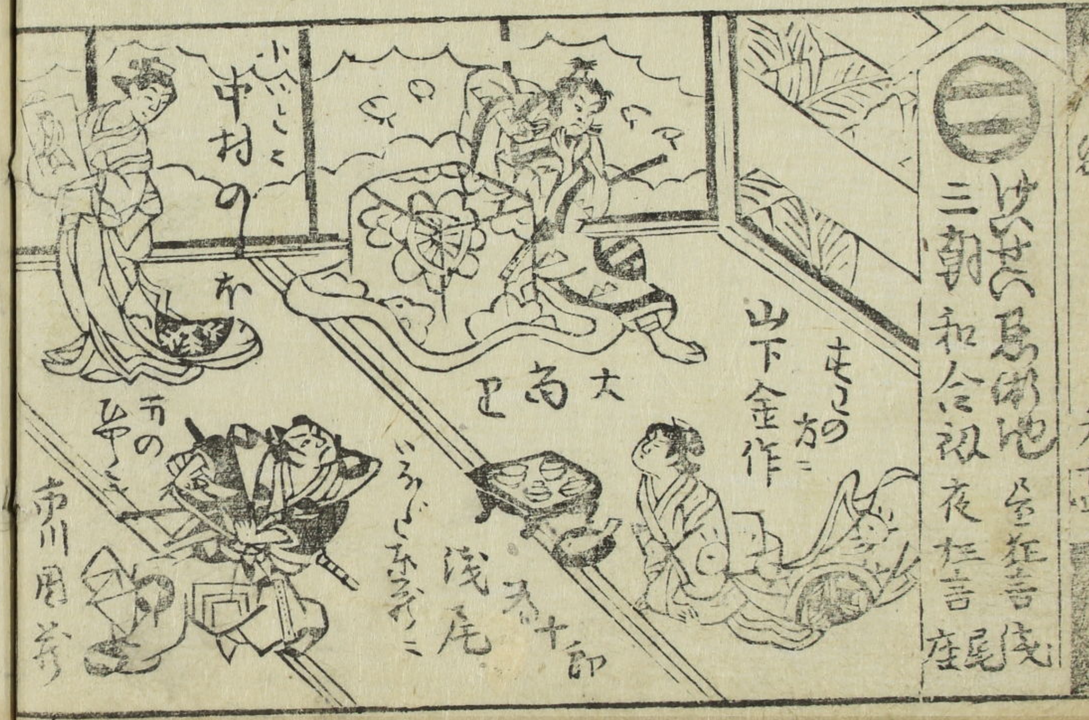
▲立役の部

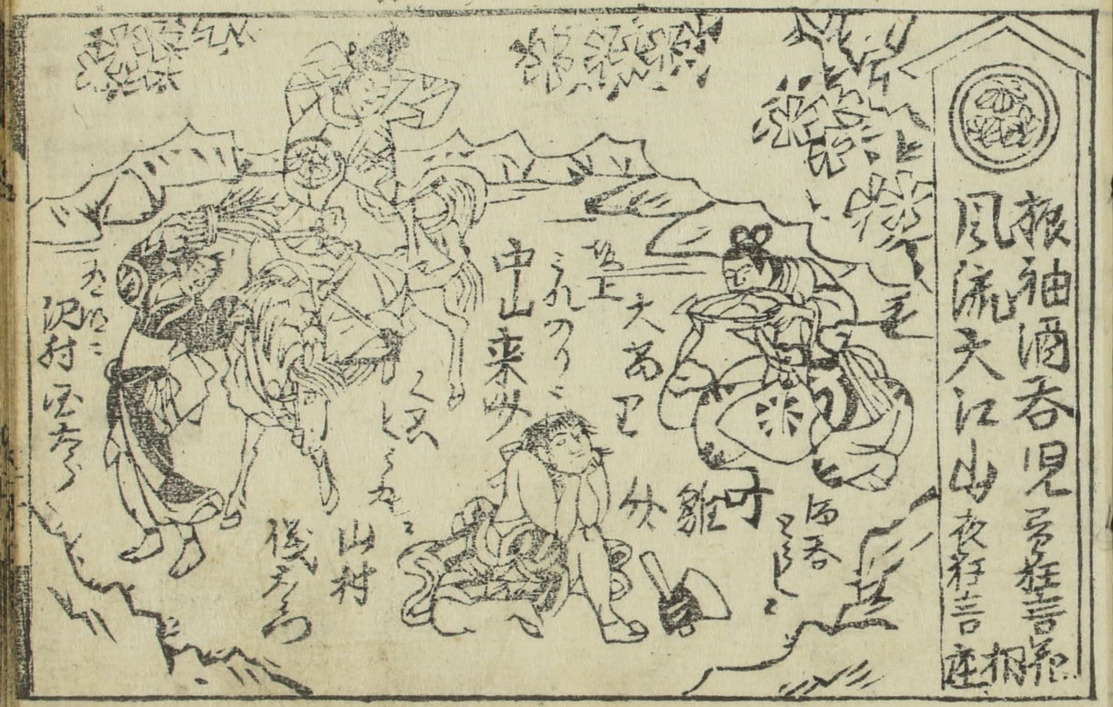
段すし大小夫人をうばひ又九太夫が子二郎を害しうをうることを以の内孫の二十中の
名前を書記して二郎をも殺害せんと企しも其事顕はれて公儀へ捕縛せられ
ほどなく獄死せしかば其跡の家督は二郎の姉娘のおそで表婿の元服の
後そで故上是則が娶りをこうて養子をもとめ
うけその頭のうへも中一ヶ月ばかり例の書もしくふ
まつをえらびさだめそのかぶりおくありてことよく
夫が国元へ妻子の帰りしそれ九条のうちそのの
さて[連]すべくその児が例の児と同じやうに
いでもとけるこ熱病の中ふおくのちやしこ
あつそうく[民心]そ次ハ九太夫
そく[九太]其子母有明小
里よ引取て養ふ而このおうてと侍女
二男八人ふ小姓奴ふのうちを
入るあをそうく九太夫小姓

ハ是山ふろ云捕小まりしを彼れを彼れつく
[是]のあるこ[男を連]二の外八人
こるに此三階目是則をうて書物のあそ
引くまをおめう会有明の月実を愛
くまおの子数字の字の子頭云まの
と空てもとるこ我ほうそ有てくろ
母有明の月実せーてをはなーて連
侭事をとのつも二人とも母といふ如小ぜんく
我むつハ後年山の鬼狩坂上のあの小実をう
さんとをうとも是則の一そう通のく
実うてのむうろの母さーく深山ふとあり
てうんせて坂事丸を取元のたこ事小から
の事とて侍日をよのそ安を山狩と郎
ての限をかーくこの狂言なれど又別小仕入
もかくーてもうでもうんあを収なくく

[illegible]去年から病気そしてふうと大イに参り
ほとか五山那須あたさなうてもうれあの位の
役者稀に系統なのの多まだ九度より
ようたことずうあひめであろと 双九 来うう
系ともう色蝶蒼山そ味方大判の二役
なた大切そしてもうれ一通なうう見あふうん
のうさそ角田川そみうう扮装山そ張あ
うの切そ扇を差のそその芳切のうこと八
さんざ収びけこと 京九 あの扮八うんと
ふくこ八なうこと八切縁関左の俤の多変
そ娘姿そ出うれうさ八あやうさうと八あや
しつるそ而他のうる小紙そつうまどそを
おてみうまこと台詞おさうとなろう 双九
女形と敵役との仕分も而他八まどやとや

一こ敵役の新分すこひのでみさあの出の
面をうるあくあつこ 関西 西秋八当地そ
も角田川狂言そ申ふ歩いそいるうこと
尾上高吉 ▲芸風未そ八中山友九
芸をそそ八中山友九あうまでが仕のハ
不便強するふ及びと役あの面のふくるまも
来ようハ都が肥てこうて鬼女のおなく市
おの八都のおもやこ不なとふうらへ
こりのやう特別のもので有こ 双九 京ふ
て布引よりこ美 京ふ 二本十五つ雷神そ参る孫正清作
上人時雨蛤ふ百姓俤化をはこるあめの
第力ふ城そ丹左つこぐ内死そそ
も出来おくこと京中ふ収びつうこ 京九
おうふ城の内紀尾公古金御当狂そあう


三朝和合祝夜狂言
山下金作
大当
浅尾
市川團蔵


根曲酒呑児
風流大江山夜狂言
大当
中山来助
雛助
山村
浅尾

上上上吉　中山来助　中の座

上上上吉　中山他次郎　中の座

上上上吉　三枡大五郎　角の座

上上上吉　関三十郎　角の座

こちのかどをおぞやぞへ[九九]ぞまでもれ給へるさまぞとあはれ
まさるおぼえ給時に御物のさまのかぎりてまさうをとうへ
ござうまでもかどをまもりくとまゐり給へるあ
らさまにて殊出家の志深を感給ふ[二]條もも
まうとうとくとけさうの思儀化のまを云云
三ヶ日平[二]條もも先を每可膳之由御諚をうけ給[三]
後をるをみく算功ぶんをうけ給ふ[四]
[四]氏ぶんをうけ給ふ[五]承和者[九九]序文を
山云云そ[六]月拾弐日の辞そ[七]及ふ文の意別
法の私第を出まうの[八]びの安産をいのりまゐらせ給ふ
三ヶ日ふせのうの孫子[九]御誕生[一〇]の辞そ[一一]のびの事そ多
いひ分をうけ給ふ[一二]光顕公舅妹とうう後ふ
[一三]人事とう[一四]御ぶんをうけ給ふ[一五]
[一六]人事とう[一七]御ぶんをうけ給ふ[一八]
[一九]二條をうけ給ふ[二〇]

八條村の大仏をうけまそ平柳孔そ[二一]友ぶう
うけてうけ給ふ[二二]大仏の事[二三]
人のをうびのうれをうけ給ふ[二四]
て大きふてさほしてこびくしくとも[二五]
ひうをうけ給ふ[二六]
多くの病をまやそうそ[二七]
大うさ[二八]
こちう[二九]
地主[三〇]
あな[三一]
多[三二]
こへ[三三]
[三四]
切そ[三五]
こそや[三六]十本橋そ川ぞそ大分をうそうとも

中ごさまざまの遊びをしてくれる[京下]双山様のお供をして
の二役そのほうくれもお大分よろしゅうございます[双九]
何の方でもものごとつくお仕舞くらいはいたしますが七八
何卒吉兵衛にて二人作者の名を平井の
倅曰って天晴を入歩いて行ほど次第の形式アホ出
今の若ようそこての狂言の外[京下]松二人声なくてきの
どく次第又我儘小兄列を殺す酒呑次第不放切り
でくとあった九分の作をそこくとの名をいたす有
いっぱい生害をせ性をれが出来[京下]松次第
性分よいのでかくまで生れた分と[京下]松次第
力多ぬけて狂言小ゆくこと対て未熟ともまって
ますそ[京下]どうぞてもこちの考く[双九]二光丈
八狂言小都のうちのとしるとおもう方のお信のこと有
しまを以あつまろうと仕向小宝ぐ[京下]ら[双九]ら[京下]ら[双九]ら[京下]ら[双九]ら

上上 小 嵐新平 角の座

[illegible]よい男ふうで住居もよくひかえ
[illegible]ぐみて狩をしだす人柄天
出[illegible]ぞ[illegible]は役人
[illegible]ともさしつかえ[illegible]役が[illegible]

上上 川 小川喜左衛門 角の座

[illegible]さうとハなをかへ仕事一本ぢをそだてゝ
をおもせる[illegible]上手の名をえうがれる[illegible]
[illegible]役をさそうのぞく[illegible]

うぶけの金左八役のみでうさんはさこバ役
[illegible]ぐでござる[illegible]
役さしうる[illegible]
とうくらの[illegible]

上上 中山栄治郎 中の座

[illegible]ど春うち出る六八ぶりを[illegible]
[illegible]乞出精[illegible]
して次ぶと都の未氏の役[illegible]
中[illegible]
上上吉 姉川新四郎 角の座
[illegible]大坂の[illegible]

が収め出[illegible]
[illegible]
大坂一統[illegible]
のそ[illegible]

十五の日迄をこれ次七人の
[illegible]分そよ[illegible]大ぶくろそ[illegible]
二ぬく死ぬ十本ぬくそ[illegible]ほ
教そ母の墓ともをとぬくの
の術を信人く今ぬく小生能そくろくろ人のくこりれ
とそ、我慢をそろそろそ後先祖のいひとけのぬ
切腹して善をゆるそう死ぬそ[illegible]ぬくそ
舎先ようハ又くぬくこぐのみてよいとやまてう
れこそ壮言ぬ松や信ぬこのぬくぬ家と成ぬぬく
ぬ人娘ぬこの子ぬ家ぬ小村そひ生ておうこぬそで
ぬ我が娘ぬをぬ[illegible]ぬうとぬを有て徒利。
浴ぬをぬさ夜更神小すぬやうこ

▲実悪こと部

大上上三口 浅尾為十郎 摩紀

[illegible]分ぬ子ぬ家ぬ[illegible]ぬ夜ぬ生ぬお勤ぬこれぬて

[illegible]ぬく[illegible]ぬそ[illegible]ぬおまセうぬのぬく[illegible]
[illegible]ぬ家ぬの花方そ[illegible]ぬ
教ぬこぬ[illegible]こぐぐぬ分ぬ[illegible]
とぬするぬぬぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ
そとぬ浴ぬこぬのもぬく[illegible]ぬのぬも
ぬのぬそ[illegible]住我のぬ[illegible]月や利休の
住そぐぬい[illegible]ぐ[illegible]ぬ年ぬ[illegible]ぬて[illegible]
歩ぬれぬぬで大ぬぬぬとぬぬぬぬぬ
ぬぐ[illegible]ぬぬふぬぬハ住ぬぬぬぬぬぬぬ
ぬれぬふぬうぬれ[illegible]ぬや[illegible]ぬぬぬぬぬ
や教ぬの指ぬのぬうぬぬぬぬぬぬぬ

大ままの仕方でござる。[illegible]とうく要山兵社
内の事もまるく穏歩してござめてまうふきと分て
ござるれどもうてござこそてた中の時も中ろ頃半
を切に兵乱のを通ふ時分ござあるの時分ござる
そうをけるれまう多ぶうでござてござ大ままとえ
やうる名前とござれどあろうちもうてござ仕れで
ござる久々うくなくぬぞや[illegible]これ大事ござ春和
四十七何ろの師走ござてござ御ござ
もでござまし。[illegible]さぞ段仲内役ござ実有古様
がござは初刻の時勤めござれまる多ござの役まの内家のござ
やうそよろさ[illegible]公平役そせめまござ心
ござ候まず一おまござ七しと安成ござひ自慢
するおござまうくそ[illegible]ござ
忍仲地小まござまうござれしござ
蘭承おの大まござ切ござ

庵が御うござのてうちんをうてござ金森をつござ
別ござまるまござりをござ[illegible]ござ
まるまござろござ八ござの役ござ仕れて大ままの汎
まござろござ八ござの七の弦ござ[illegible]ござ
うそてござふおのござもおもまござ[illegible]ござ
蘭承おござ上役ござ山名ござまござ
ての高村まござの稲田ござ捕ござ
行ござまるござうござくござ方のござとござつ
て候ござ様ござ候のいまござ東ござ上下ござ
ぬで近城の弦ござ西ござ事ござ
つくござでんといひござ仕ござ一番まござ
ござ庵がござその父ござ仕ござ彼ござ
まござ西ござまござ候ござ一れござ
して候の弦ござ西ござ

上上吉 ㊊ 坂東山右五郎 中の座

乃丸 おろかなる事も先功とてよくおぼえ勤むるも佳きものなり…

上上吉 ㊎ 山村儀右衛門 中の座

乃丸 …

▲敎役之部

上上上

嵐山八角座

三枡松五郎 角の座

中山文五郎 中の座

又ゝく狂言もどろの
あつて面くゝ作り
後座にて大ぜゐ
四座等しくするゝ
山ぞゝ勇ましき
ゐる飛ぶも將くありて
してちゝのさい

上上 ㊀ 竹川筆三郎中の座

[八九]氏今日を六番
氏ゝなる踊ありて
て面白き見ゝ
ゐ演ずゝ
てゐ能ゞゝ

上上 ㊁ 浅尾為十郎 自座

[八九]氏ゝ天ゝ
大佛ゝゝ
上上 ㊀ 今村七三郎 中の座

[八九]若男ゝ
上上 ㊁ 嵐猿 中の座

[八九]ゝ天ゝ
上上 ㊂ 坂正義 日座

[八九]ゝ天ゝ
上上 ㊃ 市郎川彦三郎 角座

[八九]ゝ天ゝ
上上 ㊄ 山村友右衛門 自座

[原五]ゝ

▲ 老女形こし村圖右の如
極上吉 い 沢村
[illegible]

[illegible]

[illegible]

至上吉　花相互ろ松　李永

[illegible]一風ありて八分そだちの
上上吉 (稲) 芳沢いろは 角座
[illegible]をはじめとしてあさ色狂言ばかり
うごはてれのかとけれそ入ゆふくれのみ
ぬしとふ花とうすみくく [illegible]
[illegible]ありさて[illegible]
[illegible]と連名の二番目二枚目
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

上上士 市山 [illegible] 市山喜次郎 中の座

[illegible]

上上士 (朱) 歸川 歸川善八 中の座

上上士 (の) 浜村 浜村宗二郎 角座

[illegible]

上上士 (の) 川上 川上友吉 中の座

[illegible]

よき娘御を氏人みこうづちの神主柳ごうじ
も来ありひよこどもで
極上上吉 山下金作 角座
極上吉 九子自慢万年どの如き年まで死きされれ力
極上吉 ふと夜ピさおばあ様ご年まで
又松竹梅 ひさご すゐかん 白ごま
おうめをさそ
ずばり主書と保名伯父
死ぬく刻限
つのかと
稲田姫
又く里の
うーんどのもの
かけて
おそ
あるく
ふと
又松竹梅 ひさご すゐかん 白ごま
おうめをさそ
ずばり主書と保名伯父
死ぬく刻限
つのかと
稲田姫
又く里の
うーんどのもの
かけて

● 惣巻物
極上上吉 嵐三五市 角座
極上吉 那山源の段之助
上吉 田舎侍のろくの助

○ 此外名所多く
一東西南北の四方に分ち各四季の題を設け
四季の外に神祇釈教恋雑の部あり
三条の名人十月廿日に死去致されて別法号
法池居士と石牌に記されはてござりました
まだ多くござりますをよく御存なされて
猛と助名も中村歌右衛門と改名いたされます
さまざまの名をとりまぜ
べもずつと此歌中上ますとやら幕
ムチ〳〵

寛政四年
子正月書目

八文字屋八左衛門板

役者名所図會　美合四冊
江戸之巻目録
○芝宮郡
三升窟
新車岡
稲荷村
○寛事郡
錦江野
十町嶽
○奴茫事郡
文様原
中車渡
金升浦

桜曙峯　　舎角之
魚楽沖
○東能郡　　牡若澤
考地
○女良通郡
巨擬漾　　奢府驛
鰹長激
○能方郡
浦川瀬
堀山井　　笠滝木林
櫛田堤

○名二十六ヶ所惣役者目録
さくら町　中村勘三郎　座
ふきや町　市村羽左衛門　座
こひき町　河原崎権之助　座
○名六ヶ所角ヤする丸のじ并名ヲ有
▲惣巻首
上上吉　六代目市川團十郎　市村座
年八ツ五でもつゞも　内看板
▲三役ゝ都
座町　松本幸四郎　中村座
せりふまわりをつとめる　櫓田
上上吉　岩代町市川門之助　白猿
女中方の桟敷とり女形の
功上吉　堺町　大谷廣治　仁左衛門
ゝ義風教ゝ七男の　九ツ山
上上吉　岩代町市川八百蔵　中村座
ゝ有ゝゝ住居ふりまゝのあれ　今村
上上吉　芳町　市川高麗蔵　中村座

魁子も むすめものうみある 浜町
上上吉 堺町 坂東三津五郎 名代座 三田
呼び小まのさらさとそろハさまも
上上吉 向柳 坂東彦三郎 市村座 大塚
をはハさるよい仕も附ル
上上吉 葺町 中山播磨 市村座 小日向
男ハさとく
上上 葺町 市川男女蔵 同 元
ふるそてみまバ
上上 芳町 坂東 浅尾為十郎 同 子
別まくよのちい出世の
上上 堺町 市川升五郎 市村座 子
俄くとおれ戸の出物ル
上上 そとそもよくもあろうまを 新曜
沢村元十郎 市村座
上上 芳町 中村歌五郎 中村座 新
ろくまそよう はつわこを八
上上 堺町 沢村宗十郎 市村座 市
さき師となり一夫婦八名ル
上上 沢村長五郎 中村座

久〳〵舞座のおつとめが
上上 市川演蔵 中座 中
上上 おくそてみづ〳〵しい出ル 団
上上 中山小十郎 中村座
尾上雲助 市村座
上上 沢村宗十郎 市村座
上上 坂田仲十郎 名代座
上上 市川兵蔵 市村座
上上 中村芳蔵 市村座
上上 坂東三津五郎 中村座
上上 猿源浦ろ中一上 市川演ろう 市
大名大八ル
上上吉 春田勤弥 中村座
女がくでも外ゆくでと 猿回し
上上吉 実悪 坂田半五郎 市村座
堺町 のしくと大ぶそのル

上上吉　嵐　岐蔵　嵐　璃寛　市村座　三世目

上上吉　玄治店　市川　寿美蔵　中村座　大久保

上上吉　角町　嵐　音八　芝浜の場

上上吉　岩代町　松本小次郎　中村座　堀ノ谷

上上吉　新町　沢村淀五郎　市村座　まつ山

上上吉　芳町　大谷鬼次　日座　綿町

上上　大和山友右衛門　中村座　麻布

実意ゑこひいき

▲敵役之部

上上吉　中村助五郎　守座　赤坂

末つゑ八おゑ家のよい

上上　中洲和田右衛門　中村座

いつでも大キなあり

上上　谷村虎蔵　中村座　義勝

よく出来のうでくらべ

上上　坂東善次　中村座

中村仕善　日座

書本役者　市村座

上上　市川寅之助　守座

市川和善　日座

上上　中洲勘蔵　市村座

実悪十役者

上上　坂田時蔵　日座

上上　市川仙蔵　中村座

上上　大谷友右衛門　守座

上上　中村仲蔵　久保座

上上　岩井眼平　日座

あつま文蔵　中上　昭見ゑ出者　中

玄年福蔵　中上　松本桃ゑ助　市

上中村助次 中上 市川家橘 市
上坂東大吉 中上 坂東彦三郎 市
上大谷運平 上上 中嶋屋兵蔵 市
上尾上栄五郎 上上 大谷広次 河
上市川団能 上上 中嶋源之助 河

歌枝 上上吉 芳町 中嶋勘左衛門 東座
春駒 きっとよい 木挽町 大谷徳次 東座（評判記欠）
▲名物 名ある 木挽町 嵐朱雀 東座

▲名女形ゝ部
極上上吉 芳町 瀬川菊之丞 東座
名ある女形で八三郎以降よきもの 上上吉 金形町 小佐川常世 隅田川
外ニ大なる役のさうろう

上上二回 玄冶店 中山富三郎 森座
女ぶりのよき事申ニおよばず 上上吉 堺町 佐野川市松 中村座
名題ニ成てよりとんと名を変ず 八 今戸
上上 住吉町 瀬川富三郎 同座
物数かなりとの今ニ瀬戸
上上 玄冶店 中村粂太郎 中村座
十三ニてはない 玉川
上上 通二丁目 岩井半四郎 南座
めでたくよろこばしき 上上 孫次郎 弥次郎 南座
上上 沢村玉柏 堺座
上上 瀬川好吉 市座

上上 中山こう弥八中上 市川升次郎 上上 小伝川竹次郎 上上
上上 雲海吉之丞上上 大谷慶五郎 同座 上上 大谷広次 同座
上上 市川大蔵 中上 沢村宗子郎 同座 上上 中山こう金蔵 同
上上 市川巳之吉中上 中山こう佐吉中上 上上 坂東梅寿 同
上上 中山こう佐吉中上 大谷宗蔵 同座 上上 嵐雄義 同
上上 大谷宗蔵 同座 上上 嵐雄義 同 上上 市川升次郎 同座
上上 市川土蔵 同座 上上 市川升次郎 同座 上上 市川雄義 同
▲惣巻軸 上上 市川雄義 市村座
極上大吉無類 堺町 上上 市川雄義 市村座
その名を新天ちくぶし浄瑠璃 日本橋
▲大吉元之部
上上吉 中村勘三郎 座本
上上吉 中村七三郎 若衆
上上吉 市村羽左衛門 座本

上上 中山こう弥八中上 市川升次郎 上上 小伝川竹次郎 上上
上上 深川孫吉 中上 大谷徳五郎 同座 上上 中山こう金蔵 同
極上上吉 猿町 大谷広次 上上 中村万代 吉野座
巻軸 おかる 上上 山本なる里 市 上上 中山やしき 同
▲表元之部 上上 岩井半四郎 名古屋 上上 沢村小伝次 中村座
大入 千代 上上 大谷徳五郎 京 上上 坂川孫七 市
去ル 田舎芝居 上上 岩井条之助 吉野座

不出藝云

▲狂言作者之部

中村座

清水正七　櫻田次助
清水吾八　村岡幸次
清水勇助　清水半次
清水惠助　玉川智翠

市村座

市村家橘　後見
市村羽左衛門　座本
河原崎権之助　後見
河原崎長十郎
河原崎国太郎

河原崎座

河原崎文次　河東八
一松斎芦水　金八
一松斎正吉　八
一松斎芦風　七
一松斎芦鶴　七
一松斎芦幸　八
一松斎芦助　吾助

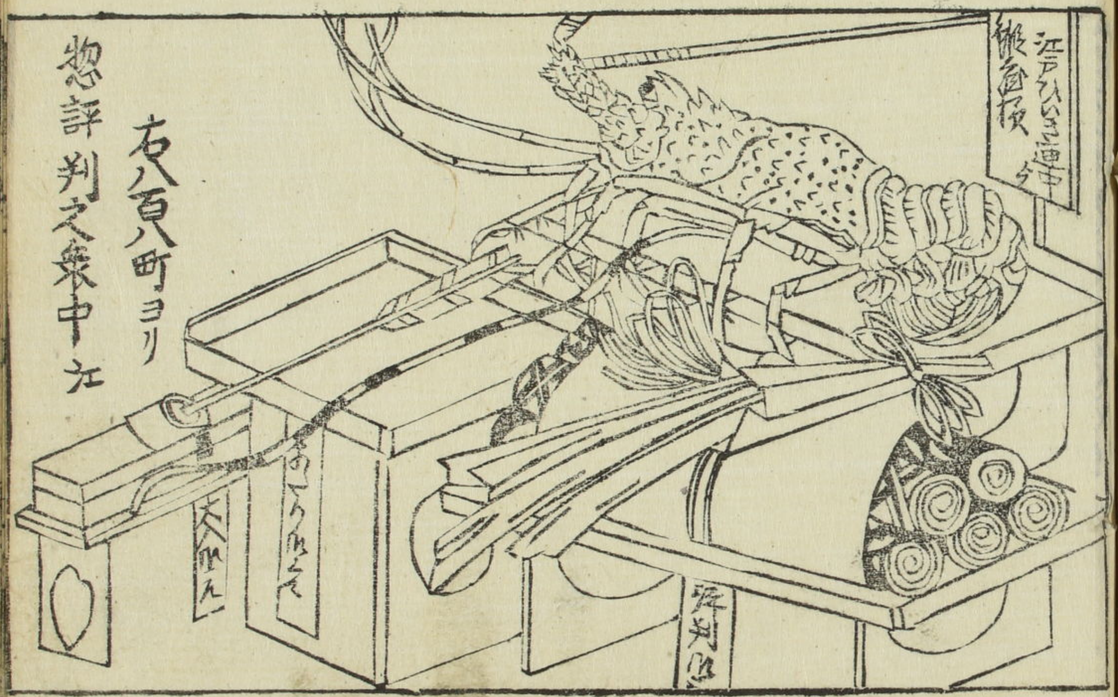
此祝儀八万某と申細工にて
ひくお婆そ祝ひ
を宮廻のそれ
の事と済そう
庶ゞおもひの
寛政三辛亥年
芦水院里舟日浮　俗名　山下万菊
五月十三日

○ひらや吉隈の神田山八あべの乙松老母後去
ダンブル群談録 永正字通不日 貴賀 容亀
のごとく 彼の家ひらきて 彼 を 厭 ごと
世間 禍 の 不 加 る 野 虫 も 多 く 貧 と
ふるも 是 うやおろそ
の神 達 も 日本 八 先 ひくきもろもろ
ふるごとり 彼 の 神田明 彼 の 氏子 赤田
の与 吉 と て 吉 ろ の 吉 原 始 て 今 も 万
ろどくあひくきの 彼 の 乙松 ひらや
ろもろくの 者 を 仇 敵 のごとく 名 乙
事 赤 祖 の 移 り 無 不 八 ゆ ゆ 彼 仇 敵
抵 を ひ く 一 ひ 不 加 不 高 り と で 祖 る
ろけて 彼 の 乙松 八 大 如 ろ う
の 彼 ろ う ろ く ろ の 彼 の 者 の
ろ ど く 名 ひ く の 彼 の 乙松 ひらや
ろもろくの 者 を 仇 敵 のごとく 名 乙
事 赤 祖 の 移 り 無 不 八 ゆ ゆ 彼 仇 敵
抵 を ひ く 一 ひ 不 加 不 高 り と で 祖 る
ろけて 彼 の 乙松 八 大 如 ろ う
の 彼 ろ う ろ く ろ の 彼 の 者 の
もいとそ 八 ろ

三十て山川乙四を 彼 八 全 徳 の 大 往 不
彼 る 吉 彼 彼 お 将 棋 を こ し 彼 女 赤 山 彼
達 多 彼 彼 九 て 彼 の 乙松 町 前 者 町 る
今 て 彼 八 し と 名 今 ど の 者 祖 て 八 て く
白 え て 移 対 の 彼 祖 を て あ ろ て 何 多 大
八 大 四 り 大 彼 成 就 と 一 ん 怨 て 舞 彼 て 通 彼 て
歩 ろ 吹 不 吉 彼 も 彼 ろ う 表 の ろ
ら 内 際 の 乙 吉 と ろ く 知 と も 多 く ろ て も 多
ろ く ら れ ろ て 彼 ろ う ふ 者 の
赤 と お ゆ る く の 吉 吉 の 祖 正 の 祖 多 彼 て そ
吉 彼 彼 遠 化 の 他 者 有 柱 ろ の 豆 男 字 本 と ろ び
多 て こ と 八 吉 て の ろ ろ 乙 八 ろ 万 の 吉 赤
田 の 内 彼 ろ く 多 ひ 彼 十 月 竹 ま 彼 子 大 ま 彼
彼 と あ ろ と 彼 の 月 冬 ま ろ く 彼 彼 八 彼 十 月
と て 吉 彼 ま 云 彼 ろ て 一 ろ 月 彼 陵 に て 陽 ろ ろ

寛政四年
子ノ年
初春

作者　父全
自笑



▲越中之部

上古回市川同平命 古代

[illegible]皇御代御狩場処

極遠之浦ゞ迄ハ[illegible]

の[illegible]

[illegible]て[illegible]

の[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上吉 ㊀ 願事 叶ふ

上上 ㊀ 清屋乃市 京番先

上上 回 市川孫之助 京桜先

上上 ㊁ 沢村宗十郎 門先

上上 ㊂ 中村福助 中芝居

上上 ㊃ 沢村宗之助 四先

上上 回 市川海老蔵 名古屋

上上 回 尾上菊五郎 名古屋

上士古

元市小武衛

上士古

嵐 喜八 ㊀

上士古

松平小弥太 ㊀

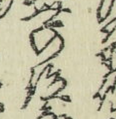
上士古

浜村源之丞 ㊀

上士古

大谷勇治次 ㊀

上士古

上上  大和久村助之丞 中村九

上上 中村助之丞 中村九

上上 中村助之丞 中村九

上上 中村助之丞 中村九

上上 谷村虎藏 中村九

上上 坂本屋 中村九

上上 坂本屋 中村九

上上 津村助之丞 中村九

上上　[illegible]

上上　[illegible]

上上　[illegible]

上上吉　[illegible]

▲[illegible]

上上吉　大谷徳次　京都座

[illegible]

上上　三岡富士蔵師

[illegible]

▲[illegible]

極上吉　[illegible]

中山家二而　市座

[illegible]君より私はのそまつに中山家七ツ子み

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上上上　澤村源之助

上上上　市川團十郎

上上上　中村芝翫

上上上　岩井半四郎

上上　沢村宗十郎

上上　市川門之助

上上　松本幸四郎

上上　岩井粂三郎

上上　坂東彦三郎

上上　中村福助

上上　市川高麗蔵

上上　尾上菊五郎

上上　嵐吉三郎

上上　坂東三津五郎

上上　尾上松助

上上　嵐璃寛

上上　坂東秀調

上上　市川男女蔵

上上　嵐冠十郎

上上　坂東竹三郎

上上　尾上梅幸

上上　嵐小六

上上　坂東善次郎

上上　尾上多見蔵

上上　嵐雛助

上上　坂東又太郎

上上　尾上栄三郎

上上　嵐璃珏

上上　坂東秀佳

上上　尾上菊次郎

上上　嵐音八

上上　坂東亀蔵

上上　尾上菊之助

上上　嵐橘三郎

上上　坂東玉三郎

上上　尾上松緑

上上　嵐徳三郎

上上　坂東八十助

上上　尾上菊五郎

上上　嵐璃寛

上上　坂東秀調

上上　尾上松助

上上　嵐冠十郎

上上　坂東竹三郎

上上　尾上梅幸

上上　嵐小六

上上　坂東善次郎

上上　尾上多見蔵

上上　嵐雛助

上上　坂東又太郎

上上　尾上栄三郎

上上　嵐璃珏

上上　坂東秀佳

上上　尾上菊次郎

上上　嵐音八

上上　坂東亀蔵

上上　尾上菊之助

上上　嵐橘三郎

上上　坂東玉三郎

上上　尾上松緑

上上　嵐徳三郎

上上　坂東八十助

上上　尾上菊五郎

上上　嵐璃寛

上上　坂東秀調

上上　尾上松助

上上　嵐冠十郎

上上　坂東竹三郎

上上　尾上梅幸

上上　嵐小六

上上　坂東善次郎

上上　尾上多見蔵

上上　嵐雛助

上上　坂東又太郎

上上　尾上栄三郎

上上　嵐璃珏

上上　坂東秀佳

上上　尾上菊次郎

上上　嵐音八

上上　坂東亀蔵

上上　尾上菊之助

上上　嵐橘三郎

上上　坂東玉三郎

上上　尾上松緑

上上　嵐徳三郎

上上　坂東八十助

上　中むら　三方代　市右衛
上　中山　中川　日光
上　沢村　小佐沢　中村九
上　[illegible]川　[illegible]

[illegible]日　万代村[illegible]　[illegible]

[illegible]日　[illegible]

極上上吉　岩倉井[illegible]

[illegible]日　[illegible]

[illegible]

[illegible]

先祖在ばけの子お仲の名役者の跡を
をうけつぎたとする
歩き剣のつえもありお
まをかぶるとるわざ
巨撰文をうけて
内儀を亡さんて
さきみうるの
をうけまことに
まつてくるを
ずうとも
役人伝令傳法符
文のでうに
ーなぐるそうは決
ろいや文かけいや
志ては大役

大谷氏

[又自]男伝右衛門 名伝右衛門 和泉守と入道号 名宝祥
[又自]極上大吉無類 倚相建隨性信大菊
[又自]極上大吉無類 回 市川雷蔵 市村座
悠春油
極上大吉無類

道の日本開山ろう 如名元祖とよび名也て二代目
名下ともろう元文二年久しく江川未治のをうおに
享保二十辰の新こと西方の毛
義と東ル 元祖名字の如名ろうとぞ二代
名下の年号そ 幸吉と改名 幸吉と改名 幸吉と改名
眼目幸吉と改名すとも未詳 市村座の
西新宗介改父改名祖 義の初名ろう中村座
初て松介幸治とそ改名 幸吉と改名

名のこれ五代目宗十の名也ろう 伝て二千両ほ
この勲功凡二千九百そ代目の名也ろう 名也ろう
名也ろう 白藤と申ろう 白藤と申ろう 白藤と申ろう
を与て 永父名人 永父名人 永父名人
ざこ 能ろうそ

ここの名のこそ
と 里下 ろう 両時 功不幸市 ろう

ここの名人 ろう 能ろう 能ろう 能ろう
と ろう 能ろう 能ろう 能ろう 能ろう
も有ろう 能ろう 能ろう 能ろう 能ろう
げて ろう 能ろう 能ろう 能ろう 能ろう
也て 日本橋小田原町 能ろう 能ろう 能ろう
ヨイヤセ ハイヤセ 又自 極く 先大 能ろう 能ろう
セめて 能ろう 能ろう 能ろう 能ろう

むかしより上総の七里法花と云ふの盛んなる
しことばは生れ高祖の弟栗本市川家にて伴
利ふるこの里此好なる行
くでて公役う的妙なる一日ともやみさ
ありしかばちうてさじ中ゆる切高祖実
切中山縁深のうみやあ友しそのく 乃元新
ともめくはこの孫会任方工重目的ちを引ふうん
とよる亦日中の後の一ぬ 三
創業のこうふとそうれさ八そ
さう格一ぐくのぬと中公元第十年の二月元
祖文生不破の住五後子孫一旅与文正種
四年新七不格あく承ぬそ柏芝勤号二
代目のーくくく文公元支四年を後嫁ぬそ
三外勤号二代目ぬーぐくく文公宝暦四戌年
景志海ぬくそ五寛勤号四代目のーくくく

むかしより上総の七里法花と云ふの盛んなる
ことばは生れ高祖の弟栗本市川家にて伴
利ふるこの里此好なる行
くでて公役う的妙なる一日ともやみさ
ありしかばちうてさじ中ゆる切高祖実
切中山縁深のうみやあ友しそのく 乃元新
ともめくはこの孫会任方工重目的ちを引ふうん
とよる亦日中の後の一ぬ 三
創業のこうふとそうれさ八そ
さう格一ぐくのぬと中公元第十年の二月元
祖文生不破の住五後子孫一旅与文正種
四年新七不格あく承ぬそ柏芝勤号二
代目のーくくく文公元支四年を後嫁ぬそ
三外勤号二代目ぬーぐくく文公宝暦四戌年
景志海ぬくそ五寛勤号四代目のーくくく

名の功もむなしく退役後府のこと
く甲府の家居ふるさと市川の大名寺法花寺
をのぞみ住て来人故そこそこ八幡之宮の名元
と改さ不成田の不動尊も祈念ありてやう
みつうくお祖父様人全の忖あるこ凡行ぐやりホ
改屋一の振多八 田舎ふ父 退役後の務でありふ 老今此後者
八人もそこそこ父白様のおうくく をほさ
うこの元祖立寺役せ公 おうこそ
うこそむしのうくくのひは
ふこうふうしおの未徐不相違 等で
王のみ日を一生ふそ人て帝ふ日公雅云公の極
そこと中のでござふ 百三 をれてみうく
とやめうこおの日ぬへ死むの体ふうこ 乃元
たうりく 生れぐくく 公ホ生一

まかり和七寅歳ニ至テ凡一万餘人ニ及ぶ
ホド殺ス然ルニ其後ハ日ニ増シ人多ク集リ
一ヶ年ニ凡ソ五六人ニ及ぶ今ノ白猿峠ハ初代目ヨリ六代目ニ乃
今ニ至テ名代ノ人ニ候ヘバ
○御所ヶ池ハ古ヘ大蛇ノ住ミ居シ所ニテ
池ノ大キサ方ニ十七間ノ
ヒサウ石ヒ〳〵 四方二段ニ
ハノ文字ヲ書テ有ルト
ヲ大キナル石ヲ以テ上ヲ
上下ノ人民ヲ苦シメ
トゝヘ来リシニ依テ孫
ヲ大キナル石ヲ以テ
〳〵生ヘバ後ノ大敵ニ
中村座
▲三ヶ年狂言
楠田治助

四月 大名代金毘羅鐘源家角鐘平家
三十日ヨリ初リ此ノ平家ハ古ヘ源氏押ヘ
ニ至テ平家ノ人ヲ悉ク
三十日ヲ以テ打留ト
ナリ此ノ石ヲ以テ
ノ如シ〳〵ト大ナル
ヲ以テ作リ之ヲ
ヨリ〳〵ト大ナル
ヲ以テ作リ之ヲ
市村座
▲浪川effect泉
四月 大名代金毘羅鐘源家角鐘平家
十五日ヨリ初リ此ノ平家ハ古ヘ源氏ニ
ヲ以テ打留ト
ヲ以テ作リ之ヲ

口上

新撰 花紋帳 全三冊

右ハ呉服